

【授業科目】 フィジカルアセスメント Physical assessment

担当教員		開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
吉田和枝、三好陽子、別所史子		1年次前期	選択	2	30	講義 演習	巻末掲載
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対するフィードバック方法	<p>複雑な健康問題をもった対象の身体状況を診査し、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術を習得する。</p> <p>課題に対するフィードバック方法/提出されたレポートにコメントをつけて返却する。或は全体の総評コメントを授業内で提示・プリント配布により公開する。</p>						
授業の位置づけ	本大学院のディプロマポリシーの②、③の達成に寄与している						
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>1. フィジカルアセスメントの概念、目的、方法、看護における必要性が理解できる。</p> <p>2. 対象者の症状・所見から必要なフィジカルイグザミネーション、アセスメントを系統的に行うことができる。</p>						
時間外学習に必要な内容・時間	<p>講義で配布する資料および紹介文献を講義前、講義後に読み、講義内容の理解を深める。(各90分)</p> <p>提示された課題に関連する文献を検索・検討し、配布資料や講義の学びを合わせてレポートする。(180分)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>						
授業計画	<p>第1回 授業オリエンテーション</p> <p>第2回 フィジカルアセスメントの概念、目的、方法、看護における必要性</p> <p>第3回 全身の観察、問診・面接、臨床推論、アセスメント</p> <p>第4回 消化器系の診査とアセスメント</p> <p>第5回 呼吸器系の審査とアセスメント</p> <p>第6回 循環器系の診査とアセスメント</p> <p>第7回 腎・泌尿器(男性生殖器)系の診査とアセスメント</p> <p>第8回 筋・骨格系の診査とアセスメント</p> <p>第9回 乳腺・リンパ系の診査とアセスメント</p> <p>第10回 中枢神経系の診査とアセスメント</p> <p>第11回 内分泌・代謝・女性生殖器系の診査とアセスメント</p> <p>第12回 小児のフィジカルアセスメント</p> <p>第13回 高齢者のフィジカルアセスメント</p> <p>第14回 感覚器の診査とアセスメント</p> <p>第15回 高度なフィジカルアセスメントの実践の意味</p> <p>※演習科目のため、夏休みに集中的に実技を行う可能性あり</p>						吉田 吉田 吉田 吉田 吉田 吉田 吉田 吉田 吉田 吉田 吉田 別所 三好 吉田 吉田
評価方法 評価基準	講義、演習、ディスカッションの参加状況 80%、まとめ(発表・ディスカッション) 10%、レポート 10%						
教科書	なし		参考書等	福井次矢、井部俊子、山内豊明監修:ペイツ診断法第2版(2015)			